

苗代のいらなし稻つくり

農業構造改善事業

設備資金貸付額五十万円に
町中小企業融資額

県下ではじめてのところみ

の幼芽が一せいに出揃うと綠化室に移動します。

しても大きな期待をよせてい

しして利用されましたが、融資限度額が二十万円であっ

たので、大きく発展している

小企業者に資金を融資する案

例が出来て以来、小口融資と

融資限度額が三十五度から八十五度まで

変わわり、わずか十七坪ほどの

家の中で電熱によって苗がつ

くられます。この方法によれば人工的に加温するので天候に左右されず、生育に最も適した環境で育てるため早く、しかも健康な苗が計画的に作れます。

特に、苗代期の冷害や水害の心配もなくなり、省力化と生産性の向上に結びつく近代的な育苗方法です。

この育苗装置は約五十ヘクタール分の規模のもので、平均二日置きに約三ヶタールの苗ができる計算です。

またこの施設は水稻ばかりでなくスイカやキウイの苗もつくれます。

過去にわたって実施さ

れたきた農業構造改善事業

が、土地改良事業を皮切り

の、近代化施設の整備は水稻

発芽室で三十二度から三十五度の温度で二日間置き、白色

たことは、本来の農業構造改

善事業のように思われ、町と

市長は開かれ、政府先渡し予

算が開かれ、政府先渡し予

